

近森病院 糖尿病内分泌内科

浅羽 宏一

Koichi Asaba

【演題】

チーム医療でがん患者さんを元気にする！ 漢方サポート療法

手術療法・化学療法・放射線療法などの進歩により、がん患者さんの生存期間は以前に比べて延長された。が、しかし副作用で苦しむ患者さんの QOL は決して改善されたとは言えない。また、社会情勢の変化や医療の高度化等により、医療現場ではますますチーム医療の重要性が高まっている。

演者の勤務する近森病院は、高度急性期病院であり全国的にも先駆けてチーム医療の推進に努めている。「がんサポート外来」とともに設けられた「がんサポートチーム」もその中の一つであり、著者はその中心メンバーの一人である。この多職種連携のチーム医療は「漢方サポート療法」を取り入れて円滑に機能し、多くのがん患者さんが治療を全うできる大きな力になっている。「山本巖漢方医学（第三医学）」を「漢方サポート療法」のベースに置き、チームに関わるスタッフ全員の漢方における専門性も高まってきている。

「多くのがん患者さんが漢方薬を服用して、元気に化学療法を全うするためには、漢方専門医だけに頼っていては、多くのがん患者さんの手に漢方薬が届かない。漢方医学に詳しくない、がん診療に関わる多くの医療スタッフの方々に漢方薬に興味をもって頂き、がん診療のプロトコールに漢方薬を取り入れて頂く必要がある。漢方薬は古くさく作用機序の分からない不思議な薬でも、特別な薬でもなく、普段使っている現代薬と同じ普通の薬である。この認識を患者さんと医療に関わる人々が理解する必要がある」と演者は言う。

がん治療に伴う副作用は漢方薬で治療することができる。

【学歴・職歴】

1965年 岩手県盛岡市生まれ

1992年 高知医科大学（現・高知大学医学部）卒業。同年高知医科大学 第二内科入局（糖尿病・内分泌内科 専攻）

1998年 高知医科大学大学院卒業 博士（医学）取得

2001年 同年より母校高知大学や愛媛大学、岡山大学で漢方医学の講義を担当する。大学の講義を担当する際、山本巖漢方医学に出会い、以後四半世紀、山本巖漢方医学で講義を行う。

高知医科大学第二内科助手、高知県立安芸病院、高知大学医学部総合診療部講師、愛媛大学医学部総合医学教育センター講師、十全総合病院を経て2015年（平成27年）より近森病院。専門は糖尿病内分泌内科。

【著書】

チーム医療でがん患者さんを元気にする！漢方サポート療法，メディカルユーコン，2026年



講演終了後に著者・浅羽宏一先生のサイン会を実施します。
既にお持ちの受講者様は是非ご持参ください。
当日販売も実施いたします。